

3年ぶりの仁川訪問（1）

韓国生活を終えた2012年以降も毎年訪れていた韓国だったが、コロナウイルスの影響で自由に行けない場所になってしまった。相変わらずコロナウイルスも拡散されていく中で、ワクチン開発が進み、次第に明るい兆しも見えてきた。そして2022年11月に以前のようにノービザでの渡韓が可能となったことから、年末年始の休みを利用して7泊8日で韓国旅行をすることにした。3年2か月ぶりの韓国になる。さあ何をしようか、何をしようか。旅行中の予定として、①仁川を歩くこと、②友人に会うこと、③「仁川を想う会」に連絡をくれた人に会うこととこの3つを決め、あとはゆっくり考えようと思っていた。しかし、結局仕事でバタバタしていたこともあって、このまま出発の日を迎えた。

12月28日、空港で搭乗手続きをしていると、電子渡航認証は済ませているかと聞かれた。初めて聞く言葉だったので、それは何かと尋ねると、ノービザで韓国には行けるのだが、そのためには電子渡航認証が必要なのだという。それをしていないと答えるとカウンターの職員はあわてて、内線電話をかけた。すると、航空会社の人の中から出てきて、私を別のところに連れて行った。今から申請して間に合うかどうかはわかりませんが、間に合う可能性があるので、急いで申請しましょうということだった。申請は通常、出発の3日前までにすることのようだ。申請はスマホやPCで行い、72時間以内に審査結果が出て、入国可能ということで航空券が発行できるシステムだ。早ければ30分で審査結果が届くが、それ以上かかる場合もあるため、十分な余裕をもって事前に申請しないといけないものらしい。今回の旅行が準備不足だったとはいえ、これは大失態だ。航空会社の手助けを借り、何とか申請することができた。問題は搭乗手続き終了時間までに審査結果が届くかどうかということだった。他の乗客が搭乗手続きをしているところから少し離れた場所で一人ぼつんと座り、審査結果が届くのを待った。今日行けなかったら30日の出発になるなあ、ホテルをキャンセルしないといけないなあとぼんやり考えていた。搭乗手続き終了まであと15分ぐらいになったころ、航空会社の人から手でOKのサインをしながら近づいてきた。これで何とか出発することができた。

仁川でのホテルは当初は宇星ホテルを予定していた。このホテルは2018年に吉原さん（終戦当時、旭国民学校一年生）や木本（同）さん、そして私の母（龍岡国民一年生）と仁川を訪問した時に利用したホテルだ。かつての仁川神社の近くで、水仁線の新浦駅もすぐ近くにあり利便性が高い。このホテルを予約しようと出発前に電話したところ、経営者が変わってホテルも変わったという。仁川在住の戸田さんに最近の仁川の様子をメールで伺ったときには、中国からの客船がなくなったことで、ホテル近くは少し寂れてはじめて、治安もあまりよくないということだったので、今回は別のホテルを予約することにした。



今回お世話になった HOTEL ATTI。旧仁川府庁の後ろ側にある

仁川空港到着、やっとたどり着いた入国審査場には長い行列ができていて、20~30分ぐらい待たされた。携帯電話のレンタルにも行列があった。この日は移動だけで終わった。仁川市内に着いたときは夕食の時間帯、昼飯を食べてなかったので、ホテルで少し休んだあと、中華料理屋でジャジャン麺を食べ、帰りにマッコリと天ぷらを買って帰った。気温はマイナス6度、風がなかったのでちょっと寒いと感じるほどだった。



以前利用した宇星ホテルは、SONOというちょっときれいなホテルになっていた

2日目の29日は日の出と同時ぐらいに街中を散策、早い時間なので人通りはほとんどない。空気はひんやりと気持ちよかった。復元された大仏ホテルがあることは知っていたが、なぜだかあまり興味がわかず、足は新浦市場の方へ向かった。9時に戸田さんと約束しているので、それまでブラブラすることにした。戸田さんは仁川に住んでいる日本人で作家をしている。戸田さんとの出会いは戸田さんが仁川に住む前、確かソウル在住だったころ、私の故郷高知に反戦詩人槇村浩の講演の講師として来た時だった。その

時は当然話をする機会はなかったが、後に戸田さんが仁川に住まれ、私が仁川を訪問した際に戸田さんの講演を聞いたことを話のきっかけにしたことを今でも覚えている。戸田さんは仁川の情報に詳しく、戸田さんと話をするときは日本語でできるので、戸田さんの存在が安心を与えてくれる。今回も戸田さん宅で久々にお話をし、おいしいお茶もごちそうになった。

そのあと、仁川を想う会に問い合わせメールをいただいた전영우（ジョンヨンウ）さんが経営されている「서담재（書談齋、ソダムジェ）」というギャラリーに行った。この建物は日本時代に旧京城電気株式会社仁川支社長社宅として使われていて、終戦後は韓国人所有の建物になった。それを数年前にジョンさんが購入し、改装して現在に至っているとのことだった。日本時代の様式をできるだけ変えずに改装したため、天井や柱を見ると当時のままだ。今の時代になってもこのようにしっかりと建物を支えているのを知ると、日本の技術の高さに驚かされる。また、今でもこうやって大切に使うてくださる韓国人にも感謝の気持ちでいっぱいになった。

